

# 会 議 録

## 1 会議名

平成 29 年度第 10 回高士区地域協議会

## 2 議題（公開・非公開の別）

### (1) 諮問事項の意思決定について（公開）

（諮問第 6 号：上越市高士スポーツ広場の廃止について）

### (2) 平成 30 年度の地域活動支援事業の採択方針等の確認について（公開）

### (3) 高士の未来づくり懇談会の意見の整理について（公開）

### (4) 自主的審議事項について（公開）

## 3 開催日時

平成 30 年 2 月 20 日（火）午後 6 時 30 分から午後 8 時まで

## 4 開催場所

高士地区公民館 2 階 中会議室

## 5 傍聴人の数

なし

## 6 非公開の理由

なし

## 7 出席した者（傍聴人を除く）氏名（敬称略）

・委員：青木正紘（副会長）、飯野正美、小林トシ子、建入一夫、中嶋真一、日向こずえ、細谷八重子、横川英男、横山とも子（欠席 3 人）

・事務局：中部まちづくりセンター 山田センター長、野口係長、田中主事

## 8 発言の内容（要旨）

### 【田中主事】

- ・会議の開会を宣言
- ・上越市地域自治区の設置に関する条例第 8 条第 2 項の規定により、委員の半数以上の出席を確認、会議の成立を報告

### 【青木副会長】

- ・挨拶

### 【田中主事】

- ・上越市地域自治区の設置に関する条例第8条1項の規定により、本来であれば会長が議長を務めるが、欠席のため副会長が議長を務めることを報告

**【青木副会長】**

- ・会議録の確認者：細谷委員

議題「(1) 諮問事項の意思決定について（諮問第6号：上越市高土スポーツ広場の廃止について）」事務局に説明を求める。

**【山田センター長】**

- ・資料1により説明

**【青木副会長】**

今の説明に質疑を求める。

(発言なし)

これで議題「(1) 諮問事項の意思決定について（諮問第6号：上越市高土スポーツ広場の廃止について）」を終了する。

次に議題(2)「平成30年度の地域活動支援事業の採択方針等の確認について」事務局に説明を求める。

**【田中主事】**

- ・資料2、3、4により説明

**【青木副会長】**

今の事務局の説明について質疑を求める。

(発言なし)

それでは、地域活動支援事業の採択決定までのスケジュールについて協議を行う。

第1回地域協議会は4月17日を予定しているが、意見を求める。

(発言なし)

それでは、4月17日とする。

第2回地域協議会は5月22日を予定しているが、意見を求める。

(発言なし)

それでは5月22日とする。

第3回地域協議会は6月13日を予定しているが、意見を求める。

(発言なし)

それでは6月13日とする。

**【青木副会長】**

これで、議題（2）「平成 30 年度の地域活動支援事業の採択方針等の確認について」を終了する。

**【田中主事】**

事務局から補足説明をさせていただきたい。今ほど決定した協議会の開始時間について皆さんに確認させていただきたい。

第 1 回地域協議会は午後 6 時 30 分開始、第 2 回地域協議会はヒアリングを行うため、通常よりも時間を早めて午後 6 時に開催、第 3 回地域協議会では午後 6 時 30 分に行いたいと思うが、どうか。

**【横川委員】**

ヒアリングに来られる人が一番大切なので、この時間でよい。

**【青木副会長】**

次に議題「(3) 高士の未来づくり懇談会の意見の整理について」事務局に説明を求める。

**【田中主事】**

- ・資料 5 により説明

**【青木副会長】**

今の説明に質疑を求める。

(発言なし)

では、各委員から懇談会の感想をお願いします。

**【飯野正美委員】**

昨年度の懇談会と今年度の懇談会を比較すると、似た内容になっていたと思う。来年度は、もう少し深いところまで話を持って行って、次年度につなげていきたいと思う。毎回同じようなかたちで、前に進まないの、地域の方もまたなのかという感じを持っているのではないかという印象があった。これから 1 年かけて、より深い話を来年度の懇談会ではしたいと思った。

**【小林委員】**

前回の課題をまだ引きずっているような気がした。特に、高士区は近所に何も魅力のあるものがない。先日、野菜を販売するという話を農協の会議で話したところ、高士区は野菜を作っている方も多いので、そういうことで高士区を盛り上げていける

のではないかと思った。

#### 【建入委員】

飯野委員の意見と同じだが、皆さんの意見を引き出せるように話をしてもらおうとすると、決まった方向の話しか出てこない。結論的に、昨年度と同じような意見が揃ってしまう。司会をする立場としては、違う意見を皆さんから引き出せればよかったが、固まった話になってしまったのは、残念だった。

今回は、皆さんのどこかに熱いものを持っているはずなので、それを引き出せるような懇談会のかたちを、どうつくるかが大事だと思った。

#### 【日向委員】

私も飯野委員や建入委員と同じだが、高土区の良いところから始まり、昨年度と同じことの繰り返しをやってしまった。無言の時間があったりして、皆さんが喋りやすい雰囲気にするのが難しいと感じた。来年度は3年目になるので、具体的なものを示せたらよいと思った。市に持っていけるくらいの意見を何とか出来上がるようにしたいと思っている。

私たちのグループでは、高土の良いところばかり挙げていたので、よくないと思い、高土区のマイナス部分を出して、マイナス部分を1つでも減らせば、プラスに転じると思うので、そういうところも大事だと思う。また、会議の進め方を1年間、自分なりに勉強して、今回はもっと参加者の気持ちを引き出せるような意見交換にしたいと思う。

#### 【細谷委員】

私も昨年度と同じような意見が出ているというのは、同感である。資料6の中にある建入委員の発言で、高土区の核となるものを作って、それを外に情報発信することが大切だと思う。空き家問題についても、それを市からやってもらうのか、高土区が主体となって情報発信するのか、その辺をどうしたらよいのかと思った。

また、地域の皆さんからは地域協議会委員は、何をしてくれるのかという意見も出た。どういうふうになればよいのか、皆さんの意見を聞いて、高土区の核となるものを作って情報発信することは重要だと思った。

#### 【横山委員】

昨年度と同じ感じは、否めなかったと思う。私のグループは意見が活発に出たのだが、参加者が高齢の方が多いので、やはり同じ内容が出てくる。昨年度よりも一歩進

んだところがなかった。大きい核としてできるものを残り 2 年の任期できちんと固めたい。この前、市で移住促進の素敵なパンフレットができたが、そういったものもよいと思う。

空き家対策に対しても、移住促進と合わせて市民活動をしている団体がイベントをいろいろな場所で頻繁に行っているが、地域協議会委員も一般の方も、ほとんど知らないと思う。こういうものをやっている等の情報がないと、いつも同じ情報の中で進まないと思う。以前から話が出ているが、他所から講師を呼んで、高士区を客観的に見て、何をすればよいのか、何処をどうすればよいのかなどの新しい情報を入れないと次には、なかなか進めないと思った。

#### 【青木副会長】

私は、意見交換の中では、新しいことが出てくるのは、なかなか難しいと思う。これからのことを考えたときには、地域協議会の中での的を絞って、投げかけていかないと、何も先に進まないと思う。地域協議会の中で、ヒアリングするなり、見学するなり、自らが動いて何かターゲットを見つけ、いかにターゲットを活かしていく手段を見つけていくかだと思う。新年度はこのように動いていけたらよいと思う。

これで、議題「(3) 高士の未来づくり懇談会の意見の整理について」を終了する。  
次に、「(4) 自主的審議について」事務局に説明を求める。

#### 【田中主事】

- ・資料 6 により説明

#### 【青木副会長】

資料を基に、協議を行う。

#### 【建入委員】

前回の会議のときに、人口を増やすというテーマで話をしたが、団地が無ければ人も来ないし、団地を誘致するといっても、我々には不可能な話なので、空き家の活用がよいという話があった。そこを焦点にしたいが、高士区の空き家の軒数も分からないので、町内会長の会議のときなどに情報吸い上げてみて、空き家の住人はどこに住んでいるか、売ってよい空き家なのかを、直接、話をして取り組んでもよい気がする。

未来づくり懇談会のときに、岩の原葡萄園に大型バスが来るが、そこで地域の方が野菜を販売してもよいのではないかという話もあり、手軽に小さい定期的なイベントとしてできるのではないかと思った。あれもこれもではなく、空き家と野菜の販売の

2つに絞ってもよいと思った。

**【飯野委員】**

以前、話が盛り上がったのは高士中学校跡地の活用である。皆さんの興味や何を求めているかは出てこないが、何かあるのではないかと思う。そこで、何ができるかではなく、何をやるかということの掘り起しが必要だと思う。

何もないけど、広いだけという場所でも人は集まってくることもあると思うし、市から草刈り等の管理費も出るので、そういうものも利用しながら、何かできるものを探ったらどうかと思う。

**【青木副会長】**

空き家や跡地も利用できるかもしれないということを、詰めていけば、何か見えて来るかもしれない。

**【横川委員】**

過去に高士地区振興協議会で高士区に空き家は何軒あるか各町内で調べたことがあった気がする。昔から空き家対策は叫ばれているが、崩れそうな空き家なのか、活用できそうな空き家なのかを、町内会長さんに調べてもらったほうがよいと思う。ただ、調べてもらっても、それをどうするかは我々ができる問題ではないが。

**【青木副会長】**

どんどん世帯が減る中で、各町内に空き家として残っているものや、敷地として残っているものは結構あるので、活用できるのかどうかも含めて調べる必要があるかもしれない。

**【飯野委員】**

妙高市の入口に「国際自然環境アウトドア専門学校」があり、ログハウスがたくさんあるのだが、今はガラガラだという話を聞いた。なぜかというと、昔の妙高村の空き家に生徒が4人で借りて住んでおり、持ち主に毎月家賃を払って、アパート代わりに活用しているようである。空き家を購入して長期で住むこともあるが、短期で学生が住むこともあるので、いろいろな活用法があると思った。

**【小林委員】**

空き家対策は、とても難しく、私の実家も空き家になってしまった。いくらで売るのでなく、ただでよいので使ってくださいということでない、皆さんなかなか手を出さないようである。それを直して住むということは、なかなか無いと聞いた。街

中でも難しいのに、高士区ではもっと難しいと思う。

#### 【横山委員】

雑談の中では、団地が来てくれればと話や高士中学校跡地のグラウンドでサッカーの大会を誘致するというのは、私たちの範疇でできるのか分からない。なので、まず、空き家対策をしながら、売りたいのか貸したいのかの情報を集める。来てもらうにしても、魅力がなければ人が来てくれないので、マルシェや高士中学校跡地に何か作ったりすることを考えたらどうか。

また、子ども連れの方の遊ぶ場所が地元がないということなので、高士中学校跡地を使って、遊ぶ場所を作ったり、お母さんたちのコミュニケーションの場があるとよいと思う。また、子連れで来る方のことを考えると、怪我をしたときに、ここから病院に行くためのネットワークや、家庭に対するフォローアップを空き家対策と同時に手を付けて進めていくとよいと思う。このように1つだけでなく同時進行していくと、何か見えてくるのかなと思う。

先般、市が新しく作った移住促進のパンフレットは、よくできている。上越市に移住した人が本町で長屋を使ったカフェを開いた事例が出ていたり、古民家で旅館もしているご夫婦が載っている。よい事例ばかりが出ているのかなという部分もあるが、そのパンフレットのミニチュア版のように、高士区の良いところを紹介するパンフレットを作るとか、いろいろ複合して出てくるアイデアを、少しずつ進めていかなければ何も始まらないと思う。

手を付けられなような小さなところと、子育て世代である日向委員等からも協力してもらえば、子連れのお母さん方が求めることを、集めることはできると思う。また、町内会長さんの中で情報を集めることはできる。

ただ、団地を誘致するという大きなことは、高士区で実現する可能性があるのかどうかを事務局から協力してもらい情報をもらうとか、また、高士中学校跡地の活用法の情報をもらうなどしたら、先に進めると思う。

#### 【中嶋委員】

田舎に移住する人は年齢的には定年後に移ってくるか、学生のときに何かしら刺激を受けて、卒業後に移ってきたりすると思う。最近仕事で山の方に行ったり、テレビを見て思ったことなのだが、学生だと雪のないところから学校の授業等でウィンタースポーツをやりに来る際に、山の魅力に触れると思う。高士区の魅力は、農業になる

と思うので、農業系の大学生に研修がてら民泊等で高士区に足を運んでもらえるような仕組みを作ったりすればよいと思う。高士中学校跡地があるので、大学のセミナーハウスを持ってきて、毎年学生が訪れるようになれば、高士区の魅力に触れて移住につながる可能性もあると思う。

**【建入委員】**

1つではなく関連性を持った何かが大事だと思う。可能かどうかは別だが、一例として岩の原葡萄園では人手不足ということがあるが、北代や山本ぶどう園では後継者が不足している。上越市ぶどう産地協議会というのが立ち上がっているのだが、岩の原葡萄園では労働力を確保するための研修みたいなものは可能だと思う。そこに住まいがあったりすると、皆つながってくると思う。1つだけ何かあっても駄目で、上手く関連性があればつながってくるのではないかな。

**【横川委員】**

三和区にはイタリアレストランや喫茶店等が結構あり、美味しいとのことで評判が良いようである。お客さんの出入りが多いと、その土地の良いところも吸収してもらえるかもしれない。また、付随して空き家があれば移住等につながるかもしれないと思う。実際に三和区にはレストラン等が4、5軒あるので、高士であれば岩の原葡萄園があるので、ワインとセットで何かあれば集客できるのではないかな。

高士中学校跡地は、建物を壊してしまえば土地はそんなに広くはない。

**【飯野委員】**

高士中学校跡地には手を加えてはいけないのか。

**【青木副会長】**

市のものなので、手の加え方にもよるだろうが、確認が必要だと思う。高士中学校跡地の近辺や他にも空き地がたくさんあるので、確認が必要である。

**【横川委員】**

飯野会長の畑や近隣の土地に、昔の矢尻があるので、人集めをするならば「矢尻探し」をしたらどうか。

**【飯野委員】**

土を掘って、整地にした後に芝生に出来たらよいと思う。

**【青木副会長】**

焦点を絞って、皆でわいわいできる何かができたらよいと思う。



**【横川委員】**

専門家を1人か2人呼んで、我々の祖先を知るといようなイベントもよいのではないか。

**【建入委員】**

市に学芸員の人があるので、ここの地区の資料を揃えてもらえばよい。

**【青木副会長】**

高士中学校の跡地で広さ的には、グランドゴルフはやれるのか。

**【横川委員】**

グランドゴルフは、基本的には30から50メートル程度の敷地があればできる。長野県ではグランドゴルフが盛んに行われている。今、長野県の平均寿命が一番長く、減塩と皆がスポーツをやるという工夫をしている。そのように、グランドゴルフのコースがあるというふうになれば、また人が来る要因になるかもしれない。

**【田中主事】**

いろいろな話が出てきており、1つに絞り込む必要はないのだが、具体的に組み組めることを整理していきたい。

ここからの協議では、何から始めるかについて、焦点を絞って皆さんから協議していただきたい。

**【青木副会長】**

委員に意見を求める。

**【横川委員】**

今、自分たちができるとしたら、空き家の有効利用だと思う。高士地区振興協議会で空き家を調べていただき、まずは数字を出してから取り組んだらどうか。

**【青木副会長】**

今回のまとめとしては、空き家対策というテーマを柱にして、それを中心にしていろいろな対策を考えていくということによいか。

**【横山委員】**

これから空き家の軒数が確認されて、活用するためには、不動産屋に入ってもらえるのか、どのようにしていくのか。この前、春日謙信交流館で「空き家の利活用フォーラム」があり、参加してきたが、上越市に空き家バンクがあることを初めて知った。何年か前に発足しており、ホームページにも載っているのだが、正直あまり稼働して

いない。間に入っているのが、(公社)新潟県宅地建物取引業協会なので、問い合わせがあっても情報提供だけなので、上越市の魅力を伝えたり、お勧めしたりするスタンスではない。だが、飯山市では至れり尽くせりで、確かに住んでみたくなるようなホームページがある。「空き家の利活用フォーラム」のときの話だと、今動いているのは、市民団体でいろいろなところで活動している団体が、空き家と移住希望者の間に入って、コーディネーター的な役割をするような動きになっているようである。移住希望者や先輩移住者の情報を集めているという状態なので、数字の情報だけあっても、それをどのように活かすのかが大切である。

#### 【田中主事】

移住コーディネーターのような人や空き家の専門家もいると思うし、空き家を活用している地域もたくさんあるため、そういうところから説明を聞くこともできる。ただ、聞いた後にどうするのかというところが、一番重要になってくる。また、町内会長から軒数を確認してもらうのもよいのだが、町内会長も忙しいのと軒数を確認しても先のビジョンがないと、確認だけで終わってしまうことも考えられる。先のビジョンを見据えてからでないと、他の皆さんから協力してもらうのも困難になってくると思う。

例えば、コーディネーターを呼び、他地域の取組を勉強する。その後、高土区ではこういうことができると知ったうえで、高土区の現状を調べるというストーリーがあれば、より具体的に行動できると思う。

#### 【青木副会長】

ここで決めないと、前に進まないということだとは思っている。各町内で大変な問題は、世帯が減ってくるのが一番大きい問題ではある。町内会長の集まりのなかで、先行してよいと思うので、早く調査をして空き家の調査をお願いしたいと思う。

コーディネーターを呼ぶ話もあったが、市の土地関係の担当者に高土中学校跡地の活用の可能性や利用できるかの確認を事務局をお願いしたいと思う。

#### 【横山委員】

ある程度の情報を、町内会長さんで集めていただければ、ボロボロで使えないのか、十分使えそうな家があるとなれば、家族連れを誘致できそうだとか、もしくはお店まではできなくても、牧区で「お茶飲み散策」をしているが、もの凄く人が集まっているようである。この前の「お茶飲み散策」では発起人がいて、牧区で機織りをしてい

る人とジャム作りをしている人の２人で、牧区を「ものづくりの里」のようにしたいらしい。そういった趣向の方は、どんなに田舎でも空いていて安く借りられれば来ると思う。具体的な数字やデータが分かれば、具体的なところがイメージしやすいと思うので、次に進めると思う。

**【青木副会長】**

私は、高士地区町内会長協議会の会長の役でもあるので、町内会で空き家の調査をすることをここでお約束したいと思う。

**【田中主事】**

話を整理させていただきたい。まず、高士区の空き家の現状を知ることによって、高士地区町内会長協議会に空き家の数を調査していただき、それを基に協議を進めていくということによいか。

**【青木副会長】**

どのようにするのかは、皆さんと相談しながら進めていきたいと思う。

**【小林委員】**

空いているからといって、家主さんが嫌だと言えば、貸したりできないので、そこまで詰めて調べたほうがよいと思う。

**【青木副会長】**

とりあえずは、全体を洗い出してみることにする。

これで、「(4) 自主的審議について」を終了する。

その他、事務局に説明を求める。

**【田中主事】**

- ・ 次回の協議会について説明
- ・ 次回の協議会：4月17日（木）午後6時30分から 高士地区公民館
- ・ 地域活動支援事業事前説明会：3月8日（木）午後6時30分から 高士地区公民館
- ・ 地域活動フォーラム：3月4日（日）午後2時から ユートピアくびき希望館

**【青木副会長】**

- ・ 会議の閉会を宣言

9 問合せ先

自治・市民環境部 自治・地域振興課 中部まちづくりセンター

TEL：025-526-1690（直通）

10 その他

別添の会議資料もあわせてご覧ください。